

言葉の力

通称「ことちか」

令和7年6月6日発行
第6号
福島県教育庁義務教育課

「我が国の言語文化」に関する指導の改善・充実をめざして

現代社会の急速な変化とともに、子どもたちが日々触れる「言語」についても大きく様変わりしています。だからこそ、国語科の学習を通して、日本の長い歴史の中で受け継がれてきた伝統的な言語文化のよさに気づき、理解を深め、自らの表現にいかしていく力を身に付けることが重要です。その力が、変化の激しい社会の中にあっても、子どもたち自身が獲得した「言語」を駆使していく基盤となると考えます。

小学校及び中学校学習指導要領（国語編）では、これまでも重視されてきた「我が国の言語文化に関する指導」の改善・充実のために、「伝統的な言語文化」「言葉の由来や変化」「書写」「読書」に関する内容を「[知識及び技能]（3）我が国の言語文化に関する事項」として整理しています。本号では、その中でも「伝統的な言語文化」に焦点を当てて取り上げます。

キーワードは「親しむ」

◇「伝統的な言語文化」における重点

小学校：我が国の言語文化に触れ、親しんだり、楽しんだりするとともに、その豊かさに気づき、理解を深めること。

中学校：小学校の学習を踏まえて、引き続き親しむことを重視し、その表現を味わったり、自らの表現に生かしたりすること

（「伝統的な言語文化」に関する各学年の指導事項は裏面参照）

このように、「伝統的な言語文化」の指導におけるキーワードは小・中学校とも一貫して「児童生徒が伝統的な言語文化に親しむこと」です。この「親しむ」という言葉には、「慣れ親しむ」「楽しむ」「身近に感じる」という意味が含まれています。

つまり、昔話や短歌、俳句、古文、漢文等の題材について、読み聞かせを聞いたり音読・朗読したりしながら古典特有の言葉の響きやリズムに親しんだり、古典の世界の美しさや楽しさに気付いたりする学習活動を設定することが重要となります。単元・授業を構想する際には、各学年の指導事項を基に、取り上げる題材に子どもたちが親しみ、楽しみながら取り組めるようにすることが大切です。

古典って面白い…。

美しい言葉
だな…。



「伝統的な言語文化」に関する指導を充実させたい！

ここでは、古典を音読することを主な活動とした授業を例に挙げ、「伝統的な言語文化」に関する指導を充実させるためのポイントについて紹介します。

【ポイント 「親しむこと」をねらいにして授業を構想する！】

「伝統的な言語文化」に関する学習では、小学校3・4学年から中学校2学年まで、音読や暗唱、朗読といった「声に出して読む」活動が指導事項に位置付けられています。

ここで気を付けたいことは、「声に出して読む」＝「古典に親しむ」ではないという点です。「声に出して読む」のは、あくまで「親しむ」ための手立てです。子どもたちが古典に親しんでいる姿を具体的にイメージして、教師の働きかけを工夫する必要があります。



《教師の働きかけの例》



小学校

- ・ 五・七・五で区切って読むときと、五・七・五ではない区切り方で読むときと、違いはあるかな。
- ・ どんなリズムで読むと心地よいか、友達と読みあって試してみよう。
- ・ 現代語訳でつかんだ情景を思い浮かべながら、原文を音読してみよう。



中学校

- ・ 読む速さやリズムを変えて、何度も音読してみよう。現代の文章の読み方とどんな違いがあるだろうか。
- ・ 漢詩に描かれた情感や美しさが伝わる朗読の仕方について、友達と朗読を聞き合いながら探してみよう。

前述したとおり、「親しむ」とは、「身近に感じる」という意味があります。子どもたちに古典の世界を身近に感じさせ、興味・関心を持って古典の学習に取り組める授業を実践していきましょう。

【参考】小・中学校学習指導要領における「伝統的な言語文化」に関連する記載内容

〔知識及び技能〕

(3) 我が国の言語文化に関する事項

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年
	(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
伝統的な言語文化	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。
	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年
	(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
伝統的な言語文化	ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。 イ 古典には様々な種類の作品があることを知る。	ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。 イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすること。	ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。

(『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説国語編』より)

第6回「授業の魅力化応援オンライン研修【国語科】」のお知らせ

日 時：令和7年7月28日(月) 15:30~16:30

申込方法：Plant による 申込〆切：7月2日(水)

テーマ：「戦後80年だからこそ一緒に考えましょう～戦争関連教材を扱った授業づくり～」

「戦争関連教材」を扱う授業が難しいと感じている先生方や夏休み明けの国語科の授業をさらに充実させたいと思う先生方は、ぜひ御参加ください。たくさんの先生方の参加をお待ちしています！詳しくはQRコードから義務教育課ホームページをご覧ください。

